

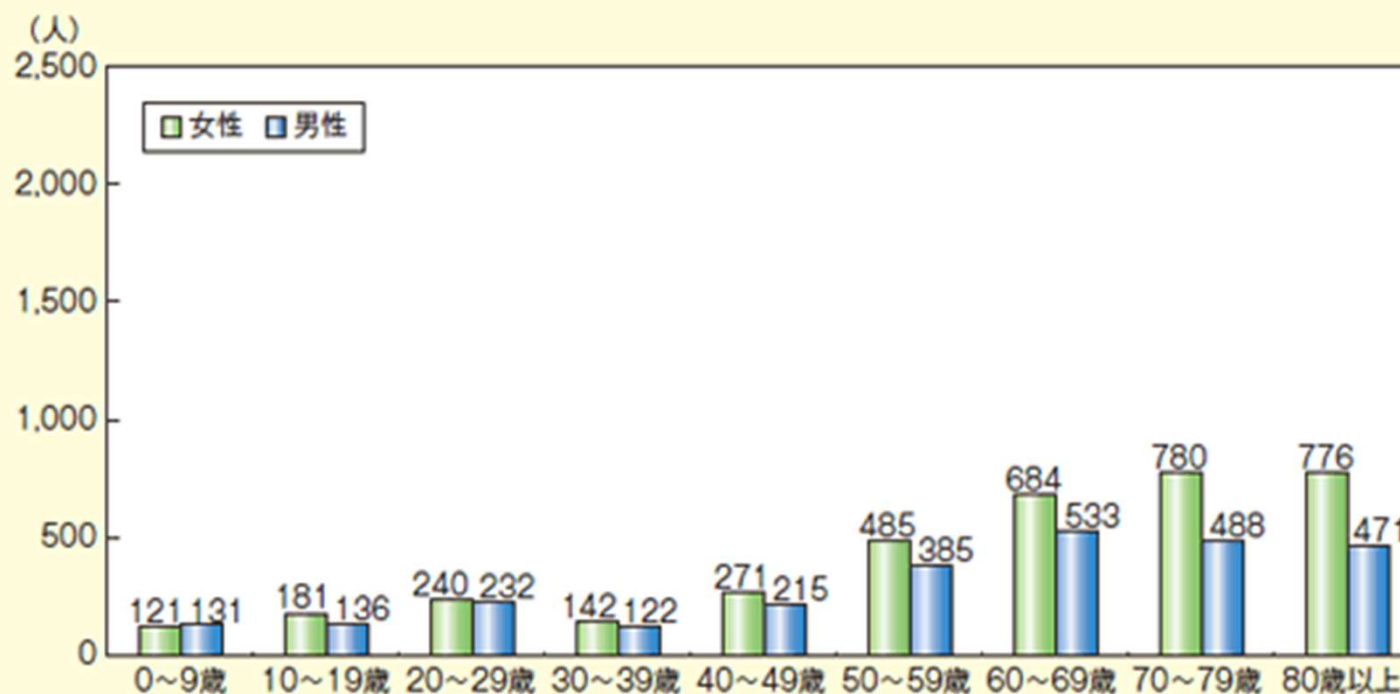
防災になぜ 男女共同参画の視点が 必要か

出典：「災害対応力を強化する女性の視点」
実践的学習プログラム（内閣府）

阪神・淡路大震災の男女別・年齢階層別死者数

阪神・淡路大震災における兵庫県の死者数は

女性は男性に比べ約1,000人多く、約**1.4倍**であった



(備考) 1. 兵庫県「阪神・淡路大震災の死者にかかる調査について」(平成17年)より作成。
2. 性別不詳、年齢不詳は除く。

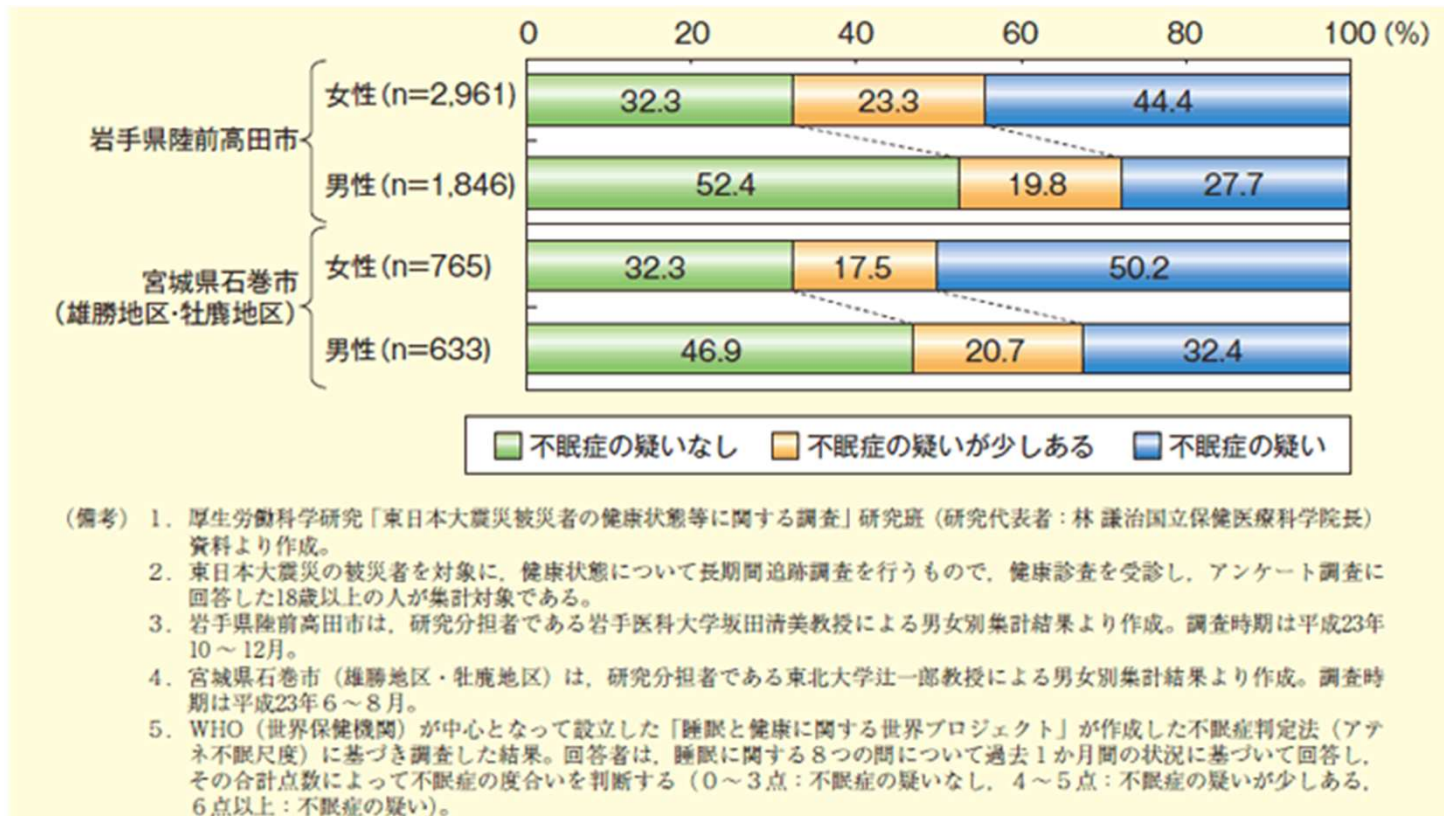
阪神・淡路大震災の男女別・年齢階層別死者数(兵庫県)

東日本大震災 睡眠障害(男女別)

睡眠障害が強く疑われる者は、

陸前高田市では、**女性44.4%** **男性27.7%**

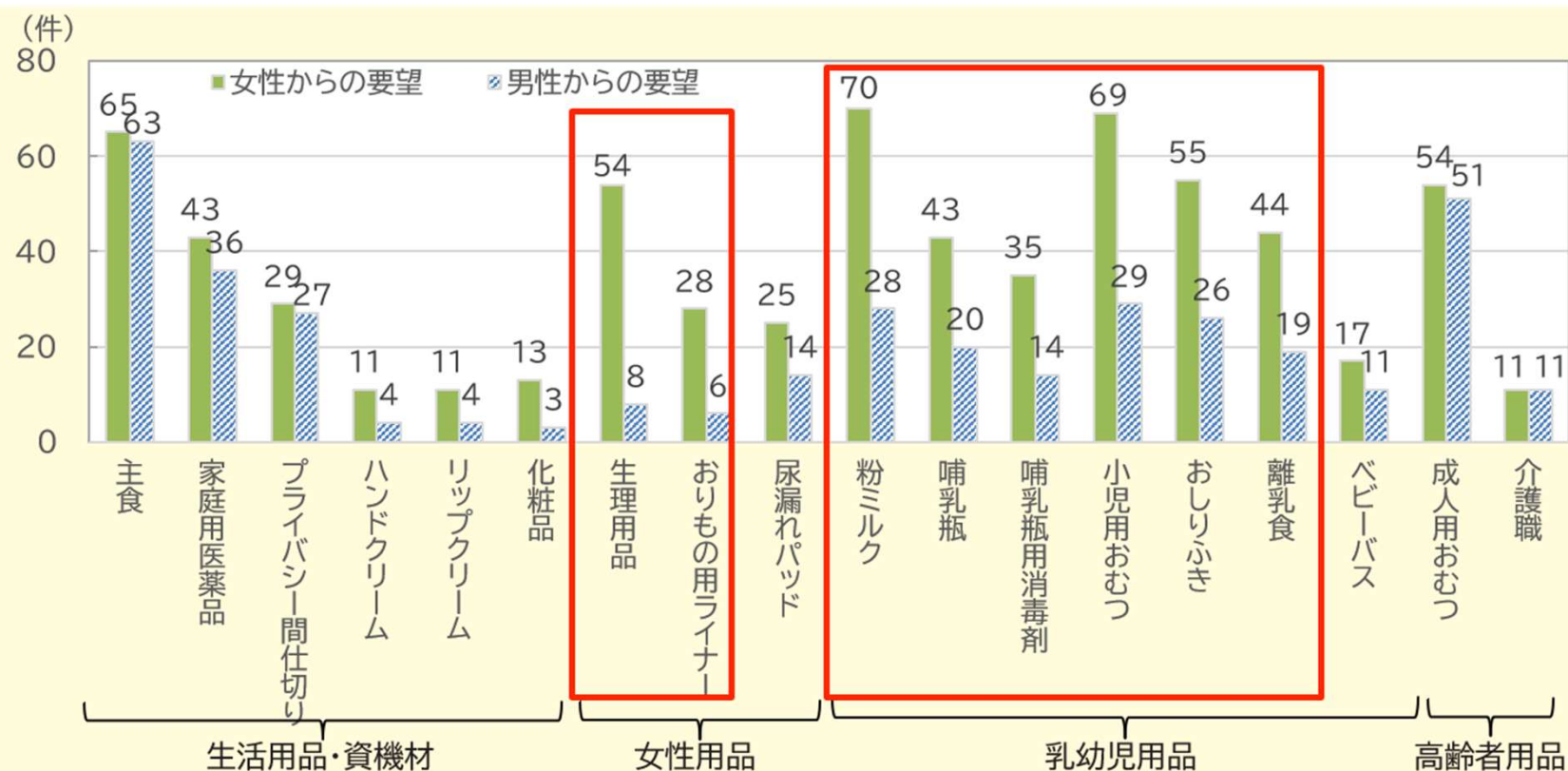
石巻市では、**女性50.2%** **男性32.4%**



睡眠に関する状態(陸前高田市, 石巻市)(男女別)

災害時に女性と男性で異なる支援ニーズ

東日本大震災時、**備蓄や支援物資が、女性や子育て家庭からの要望**
(女性用品や粉ミルク、小児用おむつ、おしりふき、離乳食等の乳幼児用品)に
十分対応できていなかった。



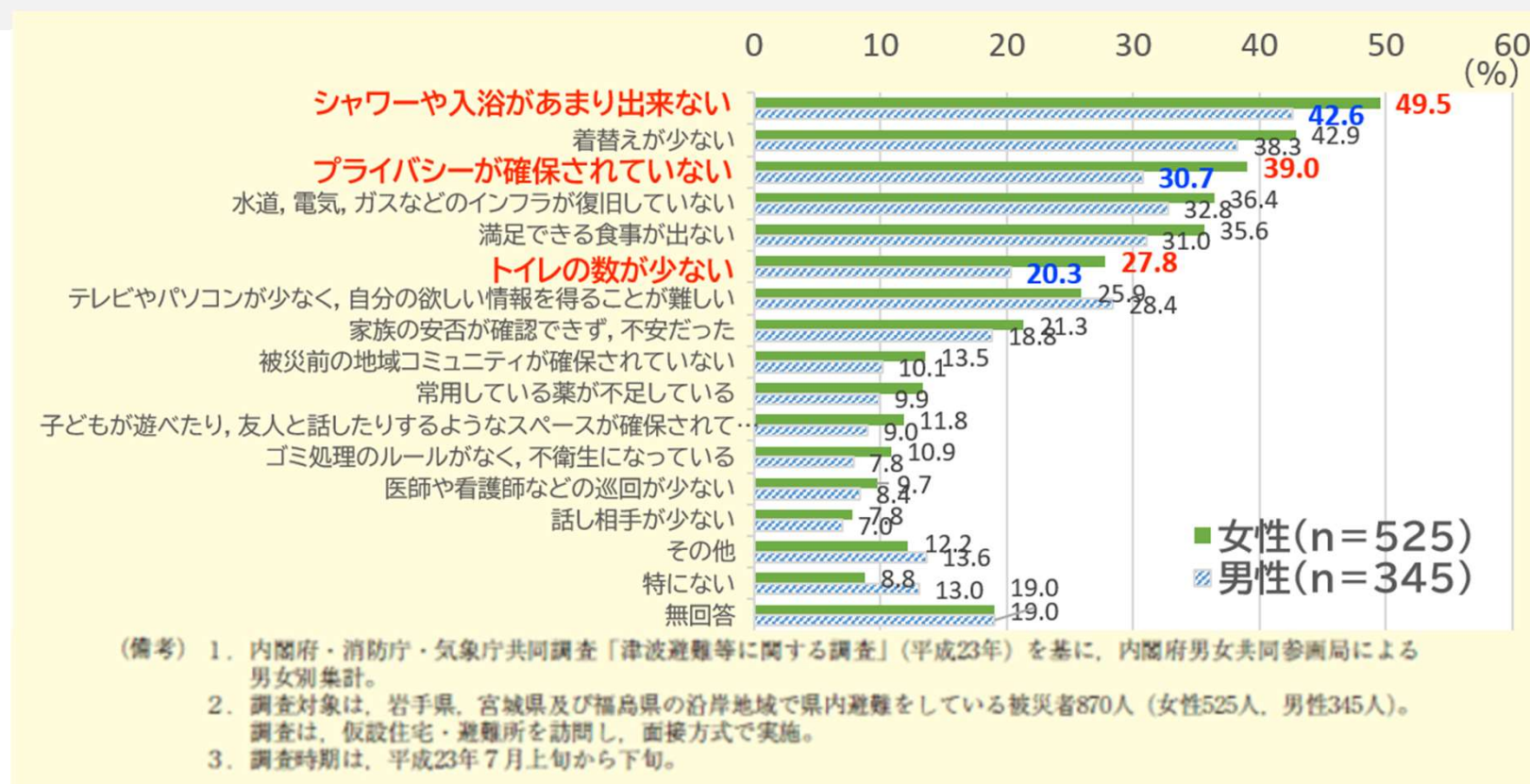
(備考) 1. 内閣府「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」(平成23年)より作成。
2. 調査対象は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の108地方公共団体の男女共同参画担当。調査時は、平成23年11月。

備蓄や支援物資に対する要望 (男女別、複数回答)

東日本大震災直後からの避難所での生活

避難所生活で女性たちは、「シャワーや入浴があまり出来ない」「プライバシーが確保されていない」「トイレの数が少ない」といったことに困っていた。

しかも、避難所の管理責任者の多くが男性で、避難所の運営に女性の声が届かない現実があった。



災害直後からの避難所での生活について困っていること(男女別、複数回答)

女性・子どもに対する暴力

● DV

- ・ 震災で**新たにDVが始まった**、震災前から夫の暴力を受けていた、もともとあった**暴力が悪化**したなど

震災後夫のイライラがひどくなり、どなられたり、無視されたり、モノを投げつけられたりするようになった。
(30代女性)

● 性暴力

- ・ **男性が隣に寝に来る、からだを触る、授乳の注視、のぞき、不同意性交等**も起きている。
- ・ **避難所**のほか、**仮設住宅**でも起きている。
- ・ 権限のある支援者からの「**対価型**」**暴力**や、被災者から**支援者への性的嫌がらせ**も発生している。

DVで離婚調停中の夫が避難所に探しに来て、気持ちが落ち着かなかった。

● 子どもに対する暴力

- ・ 避難者から**怒鳴られたり 叩かれたりする**ケースや、**性的被害**も起きている。

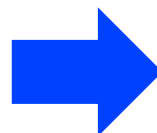
避難所で、夜になると男の人が毛布の中に入ってくる…周りの女性も「若いから仕方ないね」と見て見ぬふりをして助けてくれない
(20代女性)

**なぜ、災害時に
女性の困難・負担が増大するのか？**

災害時には平常時における社会の課題が顕在化

平常時の社会の課題

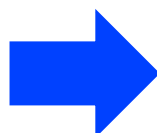
意思決定の場に女性が少ない／いない



災害時

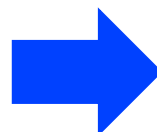
災害対応や復旧・復興で女性の意見やニーズが反映されず、必要な支援・物資が提供されない

「男性は仕事」「女性は家庭」といった性別を理由とした役割分担意識が根強い



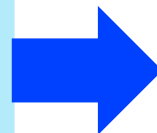
避難所運営で男性がリーダー、女性は食事や片付けなど、特定の役割が片方の性別に偏る

DVや性暴力など女性に対する暴力



避難所などでプライバシーが守られないことや、様々なストレスや制約が重なることなどによりDV・性暴力のリスクが高まる

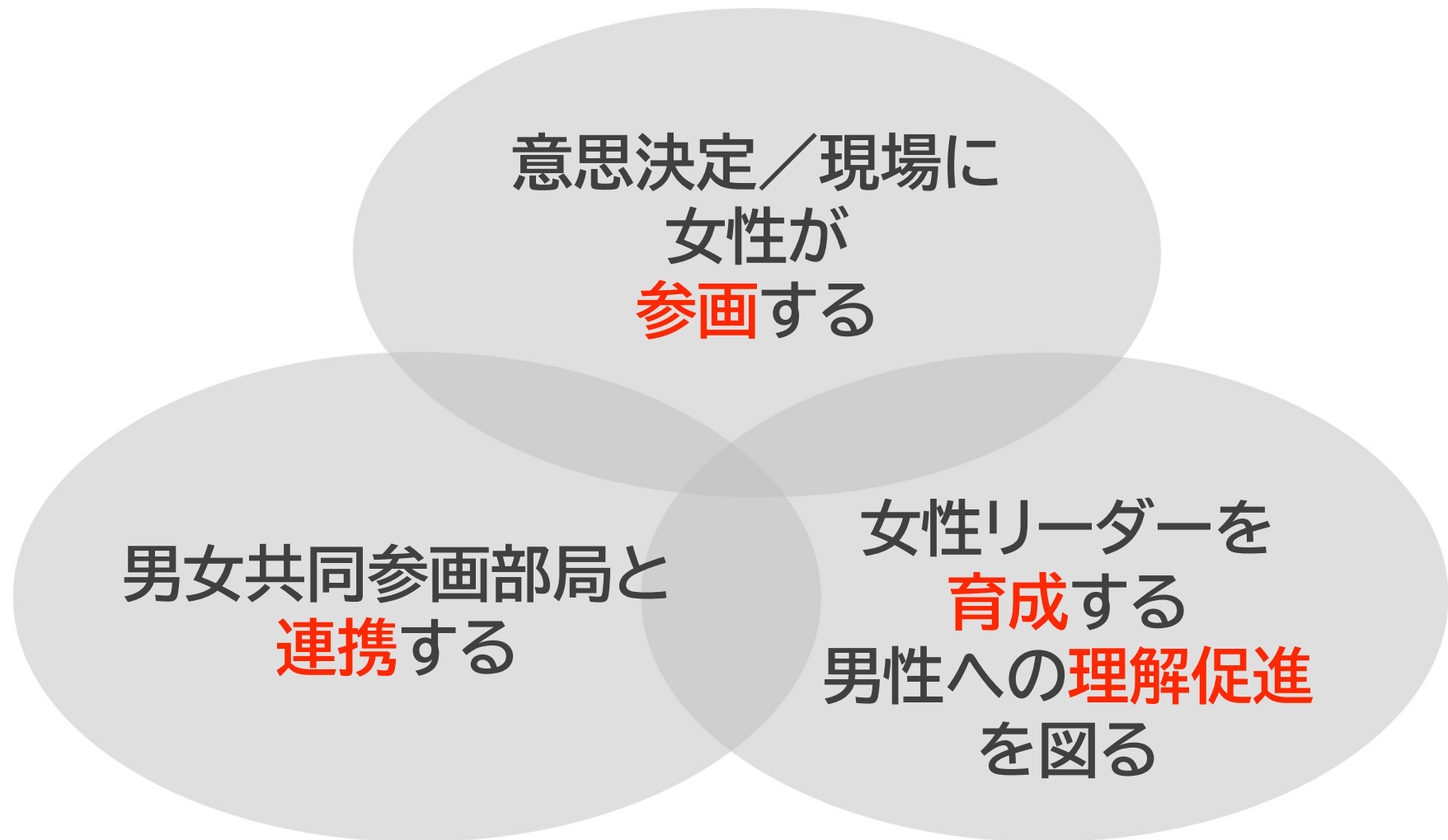
女性は非正規雇用で働く場合が多い（※女性の被雇用者のうち、非正規雇用で働く人の割合は約56%）



解雇、雇い止めなどの対象になりやすく、世帯収入が減る・途絶する

では、災害時に女性が抱える困難を
軽減するには
どうすればいいのでしょうか？

あらゆる防災・復興施策に男女共同参画の 視点を入れるための取組

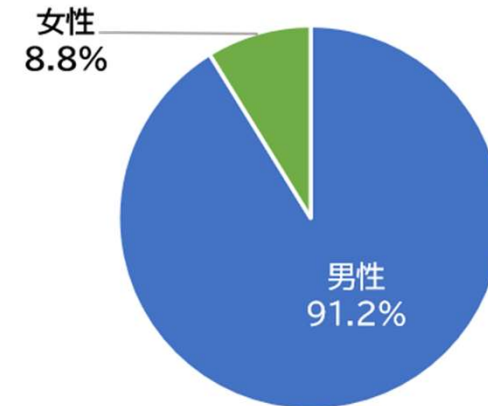


男女共同参画の視点に立った取組とは

(1)意思決定／現場に女性が参画する

●防災・復興の意思決定への参画

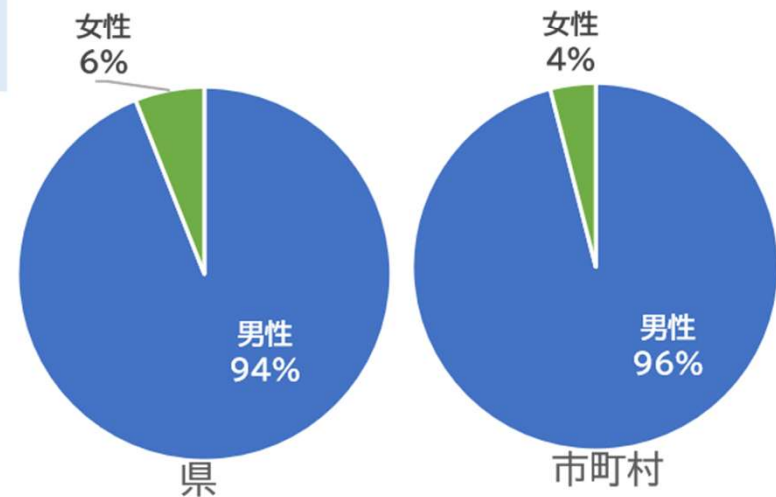
- **地方防災会議**に占める女性委員の割合を3割以上にする
- **災害対策本部・復興対策本部**に女性を配置する



市区町村防災会議の委員に占める割合

●防災の現場への参画

- **防災・危機管理担当部局の職員**に女性を配置する
- **避難所の管理責任者**に女性と男性の両方を配置する
- **自主防災組織、消防団**への女性の参画を拡大するとともに、活動を続けられる工夫をする



熊本地震の災害対策本部会議構成員の男女別比較(常勤、最大時)
※熊本県、大分県で調査を実施

男女共同参画の視点に立った取組とは

(2)男女共同参画部局と連携する

●自治体内部の連携

- 地域防災計画や避難所運営マニュアル等に男女共同参画部局・男女共同参画センターの役割を位置づける
- 平常時から男女共同参画部局と防災・危機管理担当部局、福祉部局、各種専門家等が連携体制を構築する

●民間との連携

- 男女共同参画センターを中心に女性支援に関わる市民団体や男女共同参画推進員等と連携を構築する



避難所で聞き取りを行う
市の職員（保健師）
【岡山県倉敷市】

男女共同参画の視点に立った取組とは

(3) 女性リーダーを育成する・ 男性への理解促進を図る

●女性リーダーの育成

- ・ 自主防災組織、女性消防団等の地域に根ざした組織・団体の長となる**女性防災リーダーの育成**を行う
- ・ **女性による自主防災組織の形成**を支援する

●男性への理解促進

- ・ 自治体職員や自治会長などの**男性に対し**、女性の視点からの災害対応に関する**研修や啓発**を行う
- ・ 自主防災組織等において**女性と男性が協働**する



災害時のトイレ作り体験の説明をする
いばらき女子防災部員
【大阪府茨木市】

男女共同参画の視点に立った取組を進めると

- 意思決定の場に女性が参画し、防災対策に女性の視点が入ることで、女性と男性の異なるニーズや課題が的確に把握される
- 高齢者、障害者、乳幼児などの介護・介助をするケア者（多くの場合女性）のニーズを踏まえた支援ができる

女性と男性で異なる被害の影響が軽減される
要配慮者の支援が充実する

→ それにより、被害全体が縮小する

- 男女共同参画部局・男女共同参画センターと連携し、防災・復興のあらゆる施策に女性の視点が組み込まれる
- 女性の防災人材の育成により、地域で女性の防災リーダーが増える
- 女性の視点からの災害対応について男性の理解が深まる

女性と男性がともに防災・復興に参画し、協力する

→ それにより、災害に強い社会が作られる

平常時にできないことは、災害時にはなおさらできない

まずは、行動を起こす

- 女性が参画するために
- 男女共同参画部局・男女共同参画センターと連携するために
- 女性リーダーの育成・男性への理解促進を図るために

“今”取り組むべきことを考える

行動を起こすことでしか現状は変わりません
これは、全ての部局・全ての施策に関わります

気づいた“今”から行動を起こしましょう！